主日礼拝 2020年9月13日(日)

題 「お互いに尊敬して」

テキスト：ローマの信徒への手紙12章：9～21節
(聖書の個所は最後にあります。)

台風が去って、急に涼しくなり、夜に鳴く虫の音が急に大きくなって来たように思います。今日の聖書の個所の小見出しには、「キリスト教的生活の規範」とつけられています。キリスト者の日常生活で大切なことが記されています。パウロのローマの信徒たちへのことばを重ねる切実な息遣いに全身で鳴く虫の音を重ねています。

共に学びましょう。

今日の個所を3つに分けて学びたいと思います。

まずは、人間関係全体に関する教えです。

それはお互いに愛し合う、大切にし合う、尊敬し合うということに尽きるように思います。

聖書によれば、主イエスは教えの中で、人は神に愛されていることを思って、人生において神を愛することと人を愛することが最も大切なことだと教えてくださいました。パウロは、その教えを引きついでいるのです。

そこで、

9:愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、

「愛には偽りがあってはなりません。」とは表裏があってはならない。純真でなければならぬということです。悪と善を見分ける洞察力をも身につけたいものです。まことの愛に表裏はないのです。人はまことの神を知ることによって、自由に解放された人生を生き生きと送っていけるのです。そのことをイエスは身を持って言葉と行いで示してくださったのです。

次に、

1つ：教会内での人間関係についての教えです。

10:兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

「兄弟愛」とありますが、この言葉は新約聖書の原語のギリシア語では「フィラデルフィア」という言葉で、アメリカ合衆国にもこの名前の町があります。聖書からつけられた町の名前だと思われれます。「尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。」とは、相手をすぐれた者と思ひ、お互いを立てなさい、と訳している聖書もあります。

「11:怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。」

と溢れるような教えが続きます。

「霊に燃えて」、神の力である霊、聖霊に心に火をつけて頂いて主に仕えて生きて行きなさい。わたしは、長く自分のアイデンティティーを、生まれた九州福岡の筑豊、かつて石炭産業で栄えた町ですが、そこには地下から運び出された石炭の不要な石が積まれた小山のような場所があり、ボタ山と言われていました。わたしは、自分がそこに捨てられ石のように思っていた時期がありました、聖書を知り学ぶ中で、イエスさまの招きの声を聞き、神は愛であることを教えてもらい受けとめる中で、わたしは、神さまによってボタ山から拾われ、イエスさまによって愛の火をつけられた者と思うようになって来ました。神さまが燃やしてくださる間は燃えるのです。決して自分の熱心さではなく、「霊に燃えて」生きて行く時、自分も生かされ、まわりにも熱と光は広がるのだと思っています。

忘れることの出来ない数々の美しい言葉が今日の聖書箇所には秋の虫の鳴き声のように響いています。

12:希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

13:聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもて

なすよう努めなさい。どんな時でも、イエスにある希望を捨てない。

苦しみを耐える。祈ることをしっかり続けることです。

「聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、」とは、まずは教会員同志仲よく、祈り合い、助け合うという教えと受けとめます。

「旅人をもてなす」とは、よそ者に親切にすること。古代から、旧約聖書時代からイスラエルでは大切にされて来た教えです。

そして、教会の外の人との人間関係の教えです。

最近読んだ本で、「人と会うこと自体が圧力でもある。」ということばに出会いましたが、それも一理あると思えます。人から励ましや慰め、反対に苦しみや非難や迫害を受けることもあります。でも、

14:あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るの

であって、呪ってはなりません。とパウロは伝えます。きっと十字架を耐えたイエスさまと、パウロ自身の苦難の人生の旅を思っていたのではないでしょう。そして 15:喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

小説家の三浦綾子さんは、「泣く人と共に泣くことはできても、喜ぶ人と共に喜ぶことは難しい」と言われていました。そうだと思います。

18:できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らさなさい。

:「あなたたちの努力でできることならば」と、他の聖書の訳にはあります。

19:愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。

「復讐はわたしのすること、わたしが報復する」この言葉は旧約聖書申命記 32章35節 (P334) のことばで、自分で復讐をしない。復讐は神さまがされるということです。「仕返しはわたしがする。わたしがやり返す、と主は言われる。」と訳している聖書もあります。倍返しではありませんが、正当な報いを神は必ず行われるということです。ですから自分で復讐をしないようにとの教えです。復讐は復讐の連鎖をもたらし、復讐の応戦では、すべてが壊れ破壊されてしまうだけなのです。

むしろ、20:「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」

このことばは箴言 25章21節 22節 (P1024) 旧約時代から伝えられて来た言葉、格言のようなものだと思います。イエスさまの教えとして、マタイ 5章44節 (P8) に「敵を愛し、自分を迫害するもののために祈りなさい。」とあります。

最後のことばは

「21:悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」です。

不当な仕打ちに打ち負かされるままでいるのではなく、親身に関わることによって、不当な仕打ちに打ち勝ちなさい、とも言われます。

善をもって悪に勝つ道がある。愛は究極的に勝利する。これが神の道でありこれがキリスト者の希望の道だと思ふのです。

わたしたち、神さまに愛されていることを忘れることなく、忘れたら思い出し、人を愛して、人を大切にして、人を尊敬して親身に関わりながら生きて生きたいと思ひます。聖書のことばはそのことを実現させてくれるための生きる力なのです。わたしたちは、すでにその聖書の言葉を与えられていることを感謝して喜び味わいながら生きて行きたいと願ひます。

◆キリスト教的生活の規範

- 9:愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、
- 10:兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。
- 11:怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。
- 12:希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。
- 13:聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。
- 14:あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。
- 15:喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
- 16:互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。
- 17:だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。
- 18:できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。
- 19:愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。
- 20:「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」
- 21:悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。